

JALは解雇争議を早期解決しろ 納得いく解決を勝ち取るぞ



空港に向かってこぶしをあげる参加者

闘いなくして安全なし

羽田空港アピール行動

8月11日昼、JAL被解雇者労働組合（JHU）とJAL争議の全面解決をめざす実行

委員会議の開催で、羽田空港第一ターミナル到着ロビー前で、羽田空港アピール行動を行った。

一部メディアの「JAL争議解決」先走り報道もあった中で、当該組合、支援者ら130名が集まった。

この日は、37年前のJAL123便事故の前日でもあり、スタンディングでは、「JAL争議は解決していない」「争議解決」と「安全運航の基盤である労使関係確立」を強くアピールした。

12時になるとアピール行動に集まる支援者たちが、「JAL解雇争議全面解決」のチラシ配布と横断幕、ボードを掲げ、60分間のスタンディングを行った。最後に、道路を挟ん



岡山で訴えるJHU組合員

団結ガンバローで締めくくった。松山空港でもアピール8月12日、またあの日が続いてきた。松山空港では2015年から毎年この日に「御巣鷹山をわすれるな！安全運行のためにも、ベテランクルーを職場にもどせ」とアピール行動を続けている。午前8時半～9時半、歌への仲間を含む35名が参加、全国ピラと8・12声明文をセットにしたピラを配布し、アピールした。

岡山でも宣伝行動 御巣鷹山事故から37年の8月12日、JAL争議の早期解決を求める岡山の会のメンバーとJHUの仲間が「JALは空の安全を守り、解雇者を職場に戻せ」と宣伝を行った。猛暑の中でも、盆休暇の始まりで、人も多く注目が集まった。雇用と解決金を勝ち取り、被解雇当事者の納得いく解決に向けて、全国津々浦々から支援と闘いの輪を広げよう。